

平成20年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-1	中原区子育て支援事業	継続	H15	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育て支援推進実行委員会		対象者	区内在住の0歳から3歳までの乳幼児とその保護者		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	区内に住む乳幼児を育てている保護者の孤立化や、育児不安の軽減をはかり、ひいては虐待予防につながっていけるように、地域ぐるみで子育て中の保護者をサポートしていくために、区の社会福祉協議会、民生員児童委員協議会などの地域住民が主体となり、区内18箇所の「子育てサロン」を開催し、保護者への支援を行う。					
予算額	2,100,000(円)	決算額	2,061,374(円)	不用額	38,626(円)	
不用の理由						
結果・成果	 <p>サロンの様子(杜の家)</p>		<p>中原区の社協・民児協が主体となった区内14箇所と、今年度から協働事業として支援している自主サロン4箇所も加えた区内18箇所で、月1回の子育てサロンを開催している。</p> <p>子育てサロン開催の他、各地区では、見守り活動や、中学生などのボランティア体験の受入れや、小学校との協働で命の授業など、その活動は地域の世代間交流を進める活動にもつながっている。</p>			
			実施時期 (開催日/回数等)	月1回/サロン 延べ200回	参加 人数等	12,915人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応の場合は緊急性・重要性についても触れること)
子育て中の転入者や出生数の多い中原区では、乳幼児を持つ保護者が周囲に知り合いがいないため、不安を抱いていることが多く、子育て中の親同士や地域の人々と交流できる「子育てサロン」に対するニーズは大きいものがある。「子育てサロン」に参加することにより、子育てに関する情報交換が出来、同じ年頃の子どもを持つ親同士のつながりが出来ることにより、孤立化による育児不安の軽減につながっている。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	区内18箇所でやっているサロンも定着しており、地域の子育て支援の大きな受け皿として機能している。更にサロンを卒業した親子が地域の中で羽ばたいていけるような仕組みと、サロンに参加できにくい親子への支援についての対応が付加されていくことが必要である。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

子育て世代が増えている中原区において、大切な事業だと思います。今後は、子育てサロンへ参加しにくい親子への支援などの検討をお願いします。
---

平成20年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-2	子育て情報発信事業	継続	H18	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	子ども支援室	対象者	区民	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容		
目的及び内容	転入者が多く、乳幼児を抱える保護者も多い中原区では、出生届け時や、転入時に子育てに関する情報をガイドブック「このゆびと～まれ!」にまとめ、提供をしている。 また、庁内の「こども情報コーナー」の整備管理とホームページの更新管理をおこなっている。 また、こども支援室の周知や利用を促進するため、こども情報に関するリーフレットの作成や、小・中学校の保護者へ向けた「こども支援室利用の案内」リーフレット、「園庭開放一覧」等こども情報に関するリーフレットの作成を行い、子育ての中で活用できる情報発信を行う。			
予算額	2,795,000(円)	決算額	1,599,150(円)	不用額 1,195,850(円)
不用の理由	一般競争入札のため、前年度の見積もりと大きく差額が生じた。			
結果・成果	 <p>(子育て情報ガイドブック)</p>	子育て情報ガイドブック「このゆびと～まれ!」の改訂作業では、子育てネットワークの委員の協力を得て、年度更新の制度情報の取り込みをし、情報の補足を行い、平成21年4月に13,000部の発行を行った。また、保護者向けのリーフレット24,000枚を作成し、情報の提供を行った。		
	実施時期 (開催日/回数等)	通年	参加 人数等	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応の場合は緊急性・重要性についても触れること) 改訂作業にあたっては、子育てネットワークのメンバーの協力を得て、補足内容を検討し内容に反映することが出来た。ホームページの子ネット通信の全頁掲載を行い、内容の充実を図った。 小・中学校向けのリーフレット配布することで、教育相談の利用につながっている。また、子育てに関する様々な情報についてのチラシを作成し配布したことで、転入者や、来所者へわかりやすい情報提供を行うことが出来た。
---

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	新しい情報の提供ということから考えると、2年に1回のガイドブックの発行サイクルを再考する必要があると思われる。 ホームページについては、掲載内容の拡充を図るためにも、更新作業等の効率化を検討する必要がある。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

子育てに悩んでいる方への情報提供は必要な事なので、継続が必要と思います。実際の利用者の声などを反映しつつ、良い物を作って欲しいと思います。
---

平成20年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-3	子育て・子ども支援ネットワーク推進事業	継続	H18	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	子育てネットワーク、子ども支援ネットワーク、なかはら子ども未来フェスタ実行委員会		対象者	区内の子どもと保護者、子どもに関わる関係機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	<p>新総合計画に位置づけられている区における総合的な子育てを支援するため、区内で活動している子どもに関するあらゆる団体・情報からなるネットワークを設置し、子どもに関する課題に対し共通認識を持つと同時に、情報の共有化と相互協力を図る。</p> <p>また、団体間の情報交換や交流の場づくりや子育て中の保護者の気持ちを豊かにし、子育てに望めるよう、「なかはら子ども未来フェスタ」や「マタニティ&amp;ファミリーコンサート」を開催する。</p>					
予算額	2,573,000(円)	決算額	2,568,046(円)	不用額	4,954(円)	
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p> 		<p>子育てネットワークでは、部会活動として年12回の会議を開き、隔月に「子ネット通信」を発行した。またメンバーの力で、区情報誌「このゆびと～まれ!」の改訂作業を行った。また、マタニティ&amp;ファミリーコンサートを3回実施し、1,900名の参加を得た。子ども支援ネットワークでは、3回のネットワーク会議の中で、地域の素敵な大人に出会う活動を検討し、その一環として、東住吉小学校で、プロのダンサーによるワークショップを開き、ストーリーダンスでコミュニケーションの素晴らしさを体験する機会を持った。また、2つのネットワークをつなぐために子ども未来フェスタを開催した。2,000人の参加があり、子育て情報を発信し、参加者間の交流を図った。</p>			
	<p>第3回なかはら子ども未来フェスタ 11/22 参加人数 2,000人</p>		実施時期 (開催日/回数等)	コンサート 3回 7/3, 10/28, 12/18	参加 人数等	7/3:約900人 10/28:約110人 12/18:約800人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>地域で活動している自主グループや、ボランティアグループ等と行政機関、公共的活動を行う団体などがネットワークとして集まり、地域の子育てや、子どもを支援していくという共通認識の下に各関係機関・団体の活動状況等の情報交流や活動を実施し、連携を進めることが出来た。また「子ども未来フェスタ」を開催することで、それぞれのネットワークの参加者同士の交流を図りながら、地域に向けて活動を発信することにより、多くの区民にPRし、ネットワークの役割を果たしてきている。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	2つのネットワークの特性を生かしながら、参加団体等の活動の実践を積み上げ、課題を共有していくことで、実践的なネットワーク活動の取組みとしていく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

子育て関係の事業は、今後も充実が必要だと思います。

平成20年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3 - 4	多胎児育児支援事業	継続	H18	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	保健福祉サービス課 児童・家庭支援担当 ふたごちゃんフェスタ実行委員会	対象者	中原区在住の多胎児を持つ親 及び多胎児育児に関心のある区民	当初予定事業 緊急対応事業		
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	多胎児育児は精神的・身体的・経済的負担が大きく、虐待発生のリスクが高いと言われている。中原区は多胎児の接種が年間約30組と多いことから、交流会・フェスタをボランティアと協働で親子が交流できる場を定着させ、支援体制の強化を図ることを目指す。多胎児育児をしている親同士での育児の工夫などの情報交換 専門職による子育てに関するアドバイス ボランティアの見守りの中でゆっくりと会話が出来る場作りを目的に 多胎児育児支援ボランティアの拡充・養成への支援 区内3会場での交流会の開催 ふたごちゃんフェスタ(休日開催)による家族単位の交流会を実施する。					
予算額	334,000(円)	決算額	303,295(円)	不用額 30,705(円)		
不用の理由						
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>ふたごちゃんフェスタの様子</p>	<p>ボランティアグループ「ピーナッツ」の活動支援及び・の企画・運営。(通年 参加者実数25名 延べ119名) 区内3会場での交流会の実施 エポックなかはら 10月30日 8組(39人) 下沼部町内会館 10月17日 6組(18人) 国際交流センター 11月21日 5組(16人) ふたごちゃんフェスタ開催2月22日(日) 実行委員会へ委託 多胎児家族29家族 延べ108人参加</p>	実施時期 (開催日/回数等)	上記記載	参加 人数等	上記記載

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>交流会では、先輩双子ママが進行を行い、ピアサポートの機能をとることが出来た。多胎児の保護者のより身近な会場で開催したこともあり、今まで参加できなかった母子の参加が認められ、また妊婦も含めた交流が行えた。 ふたごちゃんフェスタはボランティア団体へ委託、日曜開催としたことで半数以上の父親の参加も得られ、家族同士へと交流が拡大した。また、地域住民がボランティアグループとして多胎児育児のフェスタを実施していることを知り、同じ悩みを持つ多胎児の保護者たちからは、継続の要望は強かった。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	交流会・フェスタは、区民の中でも定着してきている。今後、新たなボランティアの発掘や多胎児育児経験者のボランティアの参加など各機関等との連携を検討していく予定。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

地域との連携を広めながら、展開を図って欲しいと思います。



平成20年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3 - 5	発達の見守りが必要な子への育児支援事業	新規	H20	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所保健福祉サービス課		対象者	2～3歳代の発達の見守りが必要と思われる子供とその保護者		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	発達の見守りが必要な子供は、保護者が育児困難感を持ちやすく、また、孤立した育児となりやすいため、保護への支援や啓発運動を目的とする。 関係機関との連絡会を持ち、支援のあり方を探ると共に、講演会を通しての普及・啓発、及び学習会の開催により、保護者同士の仲間づくりを図る。					
予算額	345,000(円)	決算額	328,896(円)	不用額	16,104(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		支援のあり方検討会を年4回実施 ・20年7月・8月・11月・21年3月/のべ43名参加 区民向け講演会 ・就園前対象 21年 2月/24名参加 ・就学前対象 20年12月/12名参加 保護者ミーティング 就園前対象 20年10月～21年2月6回実施/のべ59組参加 就学前対象 21年 1月～21年3月3回実施/のべ 6組参加			
	実施時期 (開催日/回数等)	上記に記載	参加 人数等	上記に記載		

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること) 検討会を通し、各機関が抱えている問題が見え、解決すべき課題を共有することにつながり、ネットワーク作りの第1歩となった。 また、保護者ミーティングでは、発達に不安を抱えた保護者同士のつながりや支え合いを築くことができ、講演会では地域住民の関心やニーズが感じられ、今後もより有効な支援方法について、継続した考察を行っていくことは必要と思われる。
--

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成20年度に実施した内容をふまえ、同等またはそれ以上の回数を展開する予定。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

この様な事業は、必要だと思われるので是非、継続する必要があると思います。

平成20年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-6	乳幼児ふれあい事業	継続	H19	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	中原区役所保健福祉サービス課		対象者	区民 (保健福祉センター利用者)		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容				
目的及び内容	中原区は大規模開発等により、乳幼児の人口が増加傾向にあり、転入出が多く、子育て情報や仲間づくりに対しての需要が高い。健診対象者の95%以上が来所する乳幼児健診の機会を利用し、仲間づくりや健やかな親子関係作りを促進することを目的に、子育てに理解のある市民ボランティアと協働し、乳幼児ふれあい事業を実施する。					
予算額	614,000(円)	決算額	607,735(円)	不用額	6,265(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		大規模開発等により、乳幼児の人口は今後も増加する事が予想される。また、転入出も多く、子育て情報の提供、仲間づくり、健やかな親子関係作りの場としての必要性から、約78%の健診受診者が利用していた。 実施した利用者へのアンケートでは、待合の時間に専門職から親子遊びのヒントが得られ、子どもが飽きてしまいがちな健診の待合時間を安全に楽しく過ごすことができたとの評価を得られた。また、市民ボランティアからも同様の評価を得ている。			
	(写真などのキャプション)		実施時期 (開催日/回数等)	平成20年度通年	参加 人数等	区民親子 約5,500組

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
孤立しがちな親子が、健診の待合の時間を利用して、ボランティアや専門職と関わることで、細かな不安等を相談でき、個人に合った育児情報の提供、仲間作りの場となっている。市民ボランティアから受診者へ、利用を促す声掛けがある事も、利用率の高さにつながっていると思われる。また市民ボランティアと子育て支援を協働で行う場としても、重要な事業である。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	乳幼児健診の待合時間を有効に利用し、親子のふれあいや、専門職との相談を、気軽に行える場となっている。親子遊びの工夫、地域情報をより分かりやすく提供する方法などを見直し、今後も展開していく。	A

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

健診の待ち時間を活用し、新たな事業を実施するのは効率的で良いと思います。

平成20年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
3-7	働いている妊婦への支援事業	新規	H20	保健福祉サービス課

1 事業概要

事業実施主体	かわさき助産師ネットワークSUN <sup>2</sup>	対象者	働きながら子育てをする 予定の妊婦とパートナー	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他( )	関連事業局 ・事業内容		
目的及び 内容	就労女性の増加に伴い、仕事と家庭生活の両立に関心が高まると同時に、不安を抱える人も増えていることから、対象者の不安を軽減し心の準備ができるようにすることを目的とする。 妊娠をきっかけに、仕事中心の生活から、出産や子育てへの準備と、健康生活への工夫について、夫婦が協力し合って、仕事と子育てや家庭生活を営む、ワークライフバランスのイメージが持てるように支援する。			
予算額	221,000 (円)	決算額	221,000 (円)	不用額 0 (円)
不用の理由				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 	年度内4回、土曜日に区役所5階会議室において実施した。4回の参加妊婦の合計172人、パートナー134人、その他(実母)2人の参加があった。 参加者の関心事は、託児施設の情報85.4%、働きながらの子育ての知恵65.9%であり講座に対して85%の妊婦が、「大変よかった」「よかった」と答え好評であった。土曜日開催についても84%の妊婦が同様に答えている。 実施当日は、かわさき助産師ネットワークSUN <sup>2</sup> の会のメンバーを中心に保健福祉センター及び関東労災病院の看護職が役割分担をし、スムーズに運営できた。		
	ワーキングマザーのための妊娠・出産・子育て講座	実施時期 (開催日/回数等)	H20.6/28 9/27 12/13 H21.2/28	参加 人数等 308人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜日開催により、参加者の8割が夫婦で参加された。平日開催の両親学級に参加できない方の受け皿にもなり、毎回好評で、区民サービスの向上に役立つ事業といえる。</li> <li>参加夫婦の託児施設への関心や、入所可能かという心配の声が多く、妊娠中から保育ニーズの高さを実感した。</li> <li>実施に当たり、所属の違う3者がパートナーシップを発揮し、運営への協力ができたこと、また、区民である、先輩パパ・ママの参加も得られ、市民との協働意識が深まった。</li> </ul>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針	優先度
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	「先輩パパ・ママの話がリアルで心の準備に役立った」という感想や参加者同士の交流や仲間づくりを希望する意見が多かったことから、先輩パパ・ママの参加を増やし、参加者も一緒に交流できるように内容の見直しを図る。	B

優先度が：A非常に高い、B高い、C高いとはいえない

区民会議からの主な意見

働きながら子育てをしている方を対象とする事業は、地域のニーズにあっていると思います。